

「おはようございます！」登校して
くる子どもたちに元気をもらおう毎日
です。ランドセルを背負って登校す
る姿は当たり前なのですが、得が
たいことです。

私は、山梨県総合教育センターの
適応指導教室に2年間勤務しまし
た。適応指導教室は、「不登校に陥
っている子どもたちに対し、仲間と
のふれあいと学習補充支援を通し、
自立心を養い、再登校できるエネ
ルギーを蓄えさせる」ことを目的と
しています。不登校の原因や背景は複
雑で、子ども自身のことや家庭・家
族のこと、学習のつまずきや友だち
とのトラブルなど様々な要因が複雑
に絡み合っています。原因を取り除
くことで登校できるようになる子ど
ももいますが、取り除いても登校で
きず、実は原因と思われたことはき
っかけで、別に要因があったなどと
言うことも多くありました。根気強
く丁寧な対応が必要です。2年間の
適応指導教室勤務で学び、現在の勤
務先でも心がけていることは、次の
2点になります。

①個に応じた支援

先に述べたように不登校の原因や
背景は子どもによって違っていま
す。「この子はどんなエネルギーを
蓄えたいのか？」自分で決められる
ようにする、人との温かいふれあ
い、学習習慣の確立、基礎学力など

の定着、コミュニケーション能力、
それぞれの子ども見取り(アセス
メント)を共有し、協働してその子
に応じた手立てを施していく。その
視点は、課題を抱えた子どもに対す
る手立てを講じる際には、教育現場
でも不可欠です。

②家庭や関係機関との連携

適応指導教室では、送迎時の保護
者との立ち話を大切に行っていまし
た。昼夜逆転していないか、朝の様
子はどうかなど、家での様子や適応
指導教室での頑張りをタイムリーに
情報交換してきました。保護者も不
安や疑問を抱え大変な思いをしてい
ます。その思いに寄り添い方向性を
共有することで、保護者は安心しま
す。安心は余裕を生み、その余裕が
子どもを優しく包み、背中を押して
くれます。この視点を大切にして保
護者との信頼関係を築いていきたい
と考えています。また、相談機関や
医療機関と連携してその子にあった
手立てを模索することも大切です。
この2つの視点をもって、安心・
安全で、朝家を出る時に「早く行き
たい！」と思えるような、そして子
どもたち一人一人の『心の居場所』と
なるような環境づくりを、これから
も進めていきたいと考えています。

連載・青少年健全育成シリーズ 第314回

「心の居場所」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ先：総務課 法制広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況は、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄